



蓬萊橋(静岡県島田市)
Photo by 賛助会 第2ブロック 平岡 秀一氏

自治体病院とともに55年

理念

公益社団法人全国自治体病院協議会と自治体病院の発展に寄与することを目指します

基本方針

- ①協議会と協議会所属病院が行う事業に対し協力します
- ②会員を対象とする研修会等を実施します
- ③その他本会の目的達成のため必要な事業を行います

会員

病院事業に関わる事業を営む者で本会の主旨を十分に理解した法人です

Contents

かけはし Vol.16 令和5年度 春号

全国自治体病院協議会・賛助会広報誌 <http://www.jmha-p.net/>

特集

緊急課題 第2弾

「働き方改革・労務軽減」
「新興感染症に備えた対応」

賛助会の紹介

令和4年度活動報告及び令和5年度事業計画
賛助会について

医師事務作業補助の成果の最大化を支援

(株)エヌジェーシー

<http://www.njc-web.co.jp/business/index.php>

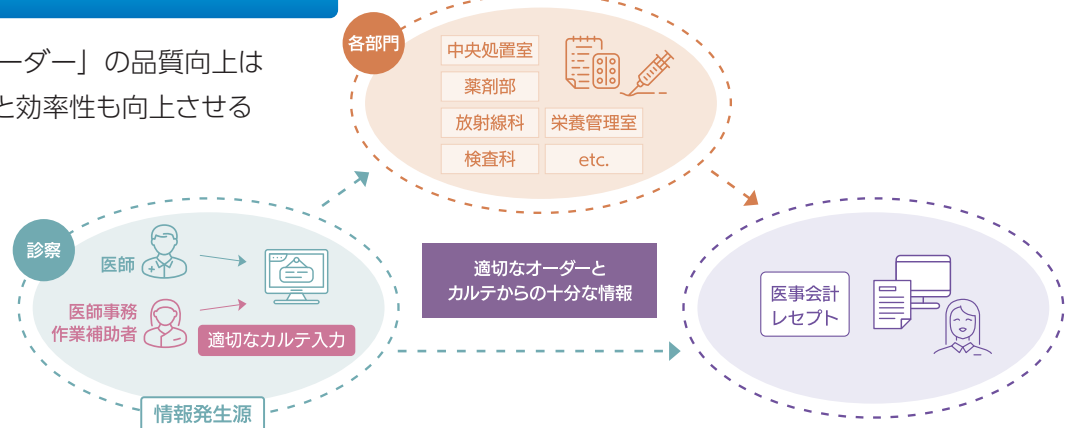


平成20年度改定で医師事務作業補助体制加算が新設されてから10年以上が経ち、医師の働き方改革の推進と共に多くの医療機関で医師事務作業補助の導入が進みました。今では、導入して10年以上の歴史を持つ医療機関も多くありますが、反面、医師事務作業補助を導入しても期待通りの成果が上がらないという相談を多く受けます。

弊社の医師事務作業補助アドバイザーは、医師の負担軽減はもとより、コスト発生源であり情報発生源であるドクターサイドで行う医師事務作業補助の能力を高め、電子カルテの記載内容やオーダーの精度向上から得られる他部門への波及効果も視野に入れ、導入効果の最大化に向け、計画の立案から実行支援まで行います。

NJCの医師事務作業補助業務の考え方

「カルテ記載」と「オーダー」の品質向上は各部門の業務の品質と効率性も向上させる



—各部門で期待できる効果—

- 医師への疑義照会の回数が減少。煩雑さが緩和され、事故のリスクも軽減
- 医師への疑義照会の回数が減少し、患者待ち時間が減少
- カルテの記載が適正になり、法的リスクや行政が行うカルテ監査での指摘リスクが軽減
- 医学管理料等の記載要件に適合し、算定機会の損失が減少
- オーダーの適正化と記載の充実で、点数算定の漏れや間違いが減少
- カルテ記載を基にした文書作成が支障なく行え、作成期間が短縮

医師事務作業補助アドバイザーサービスの概要

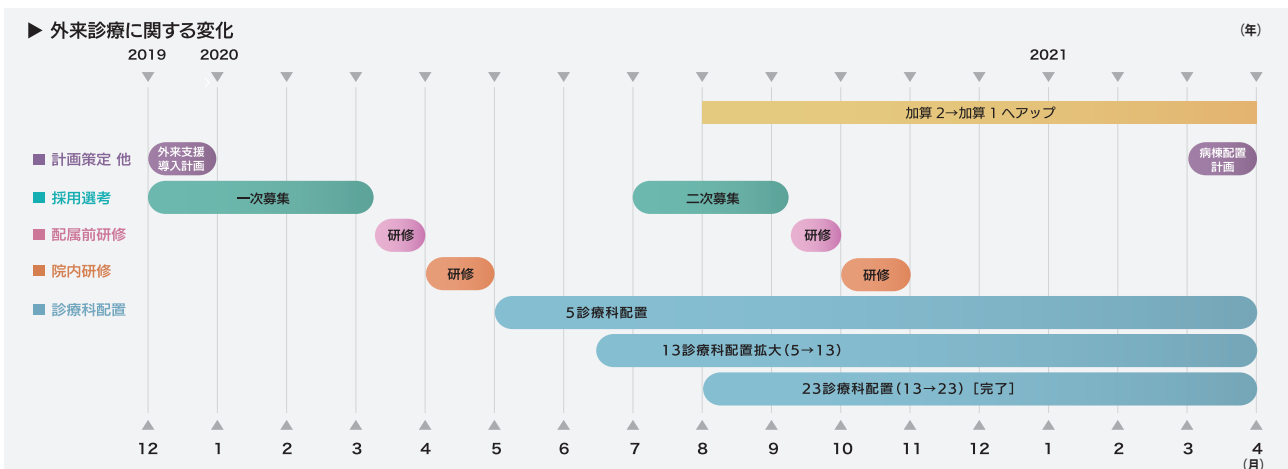
最適なプランをご提案 ← 病院の状況に合わせた「部分的なサポート」
 計画の舵取りから実行支援までの「オールインワンサポート」



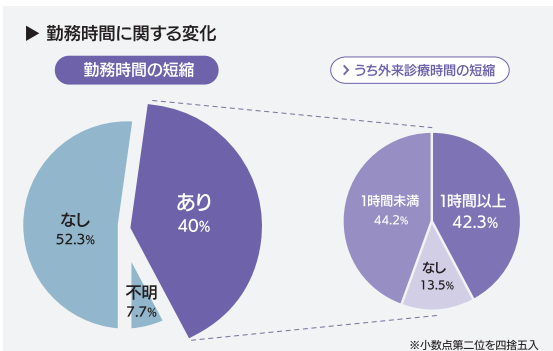
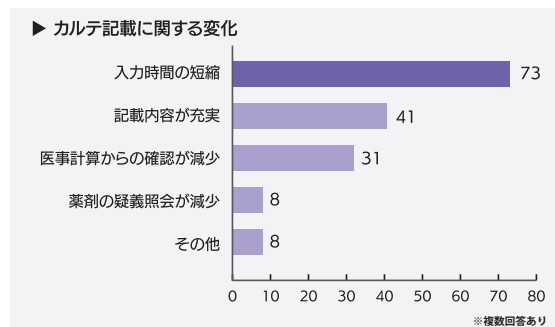
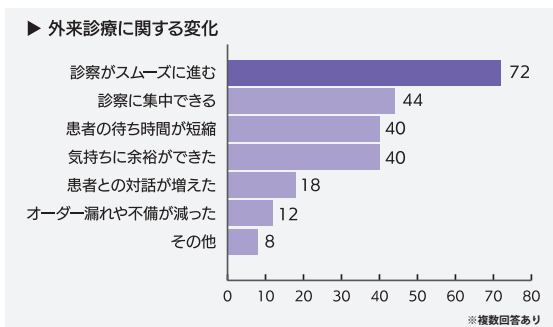
- ✓ 経験豊富なアドバイザーがご要望に合わせた最適なプランをご提案
- ✓ 陪席・代行入力を主とした医師の負担軽減効果の高い環境の実現
- ✓ 看護師等の周辺業務、各部門へのヒアリング等、院内全体の影響を含めた全体最適
- ✓ カルテ記載の品質向上や医学管理料の請求精度改善など具体的な目標設定

導入事例 [急性期 / 400床以上 / 医師事務作業補助は文書作成業務のみで稼働中]

- 課題** 医師の負担軽減とカルテ記載の品質向上を目的として、医師事務作業補助による外来診療支援を開始する
- 契約** ・医師事務作業補助アドバイザー契約 ・研修講師派遣契約 ・人材派遣契約(医師事務業務)
- 内容** 導入計画・研修計画の提案、業務仕様の提案、院内調整、院内会議参加、人材派遣にて22名の医師事務作業補助者を供給。先行診療科(5診療科)を決めスモールスタートし、課題抽出と改善を行い、他の診療科へ拡大。医師事務作業補助体制加算2→加算1に変更。5診療科→13診療科→23診療科と段階を経て導入完了。医師事務作業補助の組織構築やキャリアプラン作成を提案支援。その後病棟配置への業務拡大を提示。



—導入後アンケート(n=医師130)—



■患者一人あたりの診察時間の変化

電子カルテより、**診察開始から終了迄の時間**を抽出し
1患者あたりの平均値を比較
 ※2020年4月～12月と2021年4月～12月を比較

↓

患者一人あたりの診療に係る時間：**3分33秒の短縮**
 延べ患者数:9,341人増加(前年比5.4%増)

お客様の声 熊本赤十字病院 参与(前事務部長)江田正志さま

医師の負担軽減とカルテ記載の質改善を目的に外来への医師事務配置(代行入力導入)を計画しました。院内には代行入力業務に精通した人材がおらず、アドバイザーサービスを活用しました。結果、早期に代行入力業務が導入でき医師だけではなく看護師からも負担軽減につながったという声が聞かれ、2020年度当時の診療報酬では、体制加算のランクアップが当初予定より前倒しで実現しました。このサービスを利用して本当に良かったと思います。

薬剤部における精度の高い医療提供と業務の効率化について

(株)タカゾノ

営業本部 病院営業部

<https://www.takazono.co.jp/>

患者様への質の高い医療を提供するためには「患者様へ投与する医薬品の安全管理」を行い且つ「安全な調剤業務」を行う事が重要であり各業務に適した機能を有する調剤機器の活用で薬剤部として精度の高い医療提供と業務の効率化を図る事を目的としたい。

調剤支援システム

病院では院内のシステム化を図り発生源入力後各部門へデータ送信が行われる。

一般的には電子カルテシステムと称し薬剤部では処方・注射データを受信し調剤業務に必要なデータを解析し薬剤部内の各部門へデータを送信する。

振り分けられたデータの下

- ① 内服処方箋・注射処方箋の発行。
- ② 薬袋・薬剤情報提供文書・お薬手帳ラベルの発行。
- ③ 内服データを調剤機器へ送信（散薬・錠剤・水剤・外用）。
- ④ 注射薬取り揃え表・注射ラベルの発行。

注射薬においては定時・臨時の区分により発行のタイミング調整が必要である。

(各病棟への払出を可能とする)

*外来処方・入院処方・臨時処方。計数調剤・計量調剤等 運用の効率化を図る事を検討。

処方チェックシステム

薬剤部の業務に適した医薬品情報データベースを活用する。

- ① 添付文書の記載内容を薬剤師が解析し作成された医薬品データベースを用いて各種チェック(薬効重複、成分重複、用量、長期制限、相互作用、患者状態(新生児・乳児・幼児・小児・高齢者)など)を行う。多彩な条件での検索機能を搭載し院内各部門からの問い合わせにも迅速に対応する事が必要である。
- ② 服薬指導に必要な情報を数多く搭載する事で事前チェックを行い指導時において質の向上を図る。
- ③ 副作用初期症状のデータベースでの運用を行う。
- ④ 従来の医薬品データベースに「食物」・「OTC」のデータを照合する運用を行う。
- ⑤ ニーズに沿ってユーザー設定が可能なシステムで運用する。
- ⑥ データベース更新頻度は短期間でを行う事が望ましい。(一般的には年4回または12回)

服薬指導システム

処方・注射データを受信し必要な内容を各服薬指導システムへ展開させる。

- ① 薬歴機能
 - ・薬歴表示(カレンダー表示機能)
 - ・依頼/実施/並列表示・Rp・Rp(Do)まとめ・薬品まとめ・成分・日数表示・時点展開。
 - ・薬歴から実施入力へと展開させる。
 - ・薬歴表示→投薬・注射状況把握の簡易化を図る。
 - ・次の情報との並列表示にて比較閲覧を容易にする機能も有効である。

- ・服薬指導カレンダー（同意・予定・実施・算定）をもたせる。
 - ・患者移動情報を入力し管理する。
 - ・検査内容／バイタルサインを入力する。
 - ・持参薬、ハイリスク薬を色分け入力し管理する。
- ② 服薬指導機能
- ・症状や病名などのキーワードで検索ができる機能をもたせる。
 - ・服薬指導関連の書籍データを搭載した機能も有効である。
 - ・副作用や初期症状から可能性のある薬品を検索ができる機能をもたせる。
- ③ 検索機能
- ・利用者個々の抽出条件で検索を可能とし必要な事項を出力できる機能をもたせる。
 - ・簡易的な条件にて「日報」「月報」を抽出できる機能をもたせる。
 - ・病棟薬剤業務実施加算の施設基準に必要な「医薬品の投薬及び注射の状況（使用患者数・使用量・投与日数等を含む）」の情報収集業務の簡便化を図る。
- ④ 医薬品検索機能
- ・薬品名・薬効・メーカー・投与経路・剤型の各種条件で薬品検索を可能とし要約添付文書の参照ができる機能をもたせる。
 - ・効能・効果・副作用・併発疾患・制限事項などから薬品検索ができる機能をもたせる。
- ⑤ 薬剤鑑別
- ・薬剤本体・包装の記号から薬品検索・薬剤鑑別書の作成が可能な機能をもたせる。
 - ・医薬品バーコードおよび処方せん二次元バーコードを読み取り、薬剤鑑別書を作成する機能をもたせる。
- ⑥ バーチャル処方研究
- ・任意の条件で相互作用、成分チェックなどの処方チェックが行える機能をもたせる。
 - ・副作用一覧、記載相互作用一覧などの添付文書情報を表示できる機能をもたせる。

調剤機器

各調剤機器は、オンライン・オフラインでの運用が可能である事が望ましい。

① 散薬分包機

- ・ヘラタイプ（21包・45包）、円盤タイプ（45包・93包）、フルオートタイプの機能を業務に沿って使い分ける事が望ましい。
- ・分包速度は設定によって変動するため業務全体の流れに沿って運用する事が望ましい。（分包紙幅・剤型により振りまき速度の調整など）
- ・複雑な散薬分包業務に対応可能な機種での運用が望ましい。

② 錠剤供給装置

- ・散薬分包機にカセットを搭載し錠剤分包を可能とする機能で効率化を図る。

③ 錠剤包装機

- ・投薬頻度の高い錠剤種を抽出し適正な機種選定を行う。（非効率な在庫はNG）
- ・一般的なカセット数は130種～352種程となる。
- ・包装する錠剤数により分包紙幅を調整し運用する事が望ましい。
- ・包装機本体に装着できない場合は予備カセットでの対応可能な機種での運用が望ましい。
- ・複雑な錠剤分包業務に対応可能な機種での運用が望ましい。

まとめ

本編ではシステム機器の運用にて効率化を図る事を述べたが人員・担当業務・動線・ピーク時対応・関連施設の配置等を見直し医師との連携を重視し薬剤部に関与する院内全体での働き方・労務改善も有効であると考えます。

新興感染症蔓延時に備えた施設設計の在り方

～仮設病院プロジェクト～

(株)内藤建築事務所

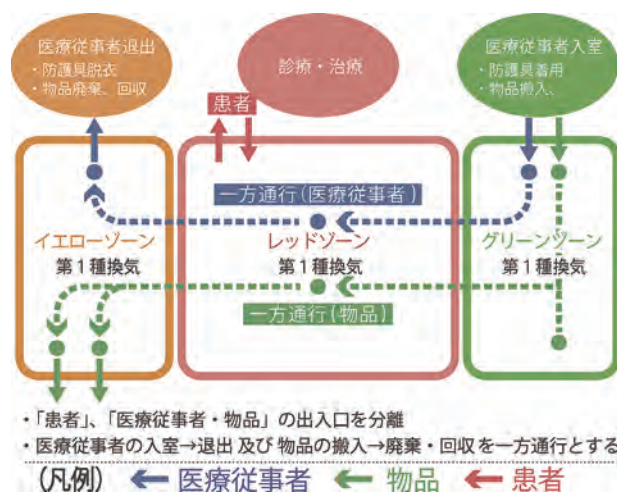
東京事務所 企画営業部

<https://www.naito-archi.co.jp/>

国内においてCovid19の感染が拡大の兆しを見せ始めた2020年3月から、仮設病院建設にかかわるモデルプランや必要な法手続、建設費用、インフラ引き込み、医療機器等コスト試算、スケジュール、発注手続き等をワンパッケージの情報として提供するプロジェクトを開始した。この「仮設病院プロジェクト」で企画・検討され、この考え方にに基づき実際に建設された施設の事例をここで紹介する。本プロジェクトで得られた知見は、今後のさらなる新興感染症蔓延時に備えた施設設計の在り方の基本となるものと考えている。

本プロジェクトで基本としているのは、グリーンゾーン、レッドゾーン、イエローゾーンを明確に区分し、医療従事者と物品の動線を一方方向とすることで、医療従事者の安全に配慮するという考え方である。感染症患者への絶え間ない医療を継続させるた

めに最も重要な人的資源である、医療従事者を守ることに焦点を当て、各種動線と換気レベルの設定を行っている。



感染防止対策における基本的な考え方

事例1 大阪コロナ重症センター

Covid19 感染症の重症患者を対象とした 30 床の仮設病棟である。大阪府急性期総合医療センター敷地内に建設され 2020 年 12 月より運用が開始している。

■敷地確保とインフラ整備

都心部の病院は敷地面積に余裕がなく、仮設病棟の建設敷地を確保するためには附属建物を撤去するなど、関係者の調整と相応の費用を要した。また、高機能な仮設建物を稼働させるインフラを本院から供給することは困難で、独立したインフラの新設が必要となった。今後整備する病院でこのような仮設建物を想定する場合には、敷地とインフラ確保の方針を明確にしておく必要がある。

■スタッフゾーンのゾーニング

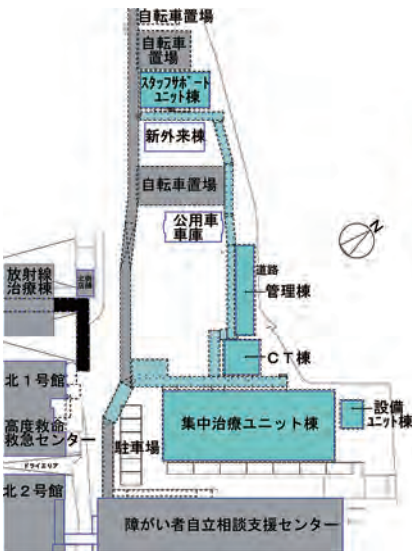
スタッフは、患者の治療に当たる時間よりスタッフステーションに留まって仕事をする時間が長く、スタッフステーションはグリーンゾーンであるべきである。それに伴って、防護服の着衣スペースと脱衣スペースをスタッフステーションの両サイドに設け、ワンウェイの動線を確保した。

■仮設病棟運営の独立性

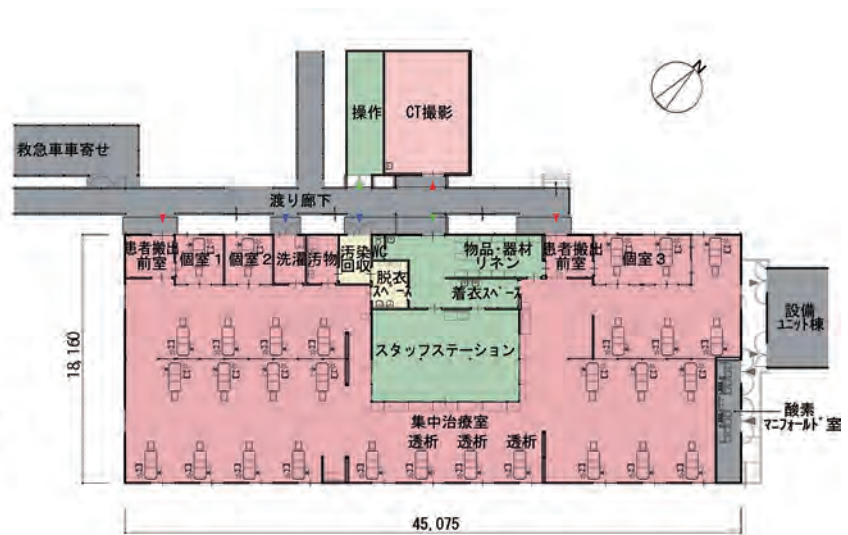
当初は大規模病院に隣接して小規模な仮設病棟を整備すれば、スタッフ、検査設備、物資など運営上の協力体制を取りやすいだろうと捉えていたが、30 床規模であれば基本的には独立した運営を図るという方針となった。そのため、スタッフサポート

ユニット棟、CT棟、管理棟、設備ユニット棟の整備が必要となった。入院患者は別の医療機関からの直接搬送を前提としている。第1波の際は大阪急性期・総合医療センターの救命救急センターで重症患者

を受け入れていたが、大阪コロナ重症センターの運用開始で当院の救急の独立性は保たれることとなった。



配置図



平面図

事例2 埼玉県済生会栗橋病院 仮設病棟

主に中等症患者を対象とした70床の仮設病棟である。敷地は本院駐車場の一部を利用し、給水・排水設備や情報設備等のインフラは本院の既存設備を活用する計画とした。建物は病棟70床に加えて外来・CT・管理棟、設備棟、検査ドライブスルーで構成される。病院スタッフとのヒアリングを重ねた結果、グリーンエリアのスタッフステーションを中心としたワンウェイ動線かつ、病室への見通しを重視した病棟プランが採用された。入院患者エリアは男女分け等の理由からオープンベッドではなく個室と多床室の組合せによる計画としている。



平面図

医療現場における ロボット(AGV)活用方法の考察

(株)日本シューター

第一営業本部 システム営業部

<https://www.nippon-shooter.co.jp/>

はじめに

医療現場が抱えている問題には、新興感染症拡大によって患者や医療従事者の感染増加により、救急患者の受け入れ制限や通常の診療行為、手術が出来ないといった深刻な医療崩壊が考えられる。又、人手不足も相まって大きな社会問題となっている。人に代わって仕事をするロボットは、これらを解決する一つとして大きな期待が寄せられている。近い将来には、映画で登場するロボコップやターミネーターといった人間と同じような、又はそれ以上の頭脳(AI)をもったロボットが誕生すると思われる。

歴史的に見てみると、最初は製造ラインの設備としてロボットが開発された。その後、モノの選別・ピッキングや包装するハンドリングマシンも出現し、医療現場でも手術支援ロボットといったマシンが実用化された。一方、人の足の代わりに自動で走行するAGV^①が出現し、ハンドリングマシンと合体したロボットも出てきた。私たちの生活圏の中でも、配膳ロボットや受付ロボット、清掃ロボットなど目にする機会も増えてきたことから、その期待度は日々大きくなっている。本稿では、前述した課題解決に注目されているAGVの最新事例と今後の医療現場での使われ方について考察する。

1. 産業界では、いち早く物流業務の自動化にAGVが導入された

AGVの歴史は古く、初めて登場したのは1950年代初頭で、米国にて物流業務の自動化設備として実用化された。日本では、1970年代から主に工場内や倉庫で導入された。1990年には、モノを搬送するだけでなく部品や製品が保管されている棚から“必要なもの”を“必要なだけ”自動的に取り出し搬送するAGVが出現し、24時間稼働できることから省人化と

共に生産性が大幅に向上した。誘導方式は、床面に誘導体を設置しそれに沿って走行する方式(電磁誘導や磁気誘導方式)が中心であったが、その後、画像認識方式(天井や床に設置した二次元コードを読み取り走行する方式)やレーザー誘導方式(壁や床面に設置した反射板にレーザーを反射させ走行する方式)等が開発され、システムの自由度は飛躍的に向上した。最近では、SLAM^②誘導方式というカメラやセンサーを使ったシステムが開発され、従来、必要とされた誘導体が不要になり自己位置を確認しながら目的地までの走行ルートを自動で作成し、障害物も検知しながら走行することが可能となった。これにより、オフィスビルや公共施設などの有人環境下でも実用化が始まった。(自律型走行AGVの誕生/別名AMR^③)

2. 医療現場でのAGV導入状況

医療現場でのAGVは、2000年頃から導入が始まった。当時のAGVは誘導体(磁気テープ)を床に貼る「電磁誘導式」が主流であったが、設置するには多くの条件があったため、導入は限定的であった。給食の配膳カートの搬送や手術室から中央材料室へ使用済み器材の搬送が中心であった。(人と交わらない専用ルートでの走行)

3. 当社が開発したAMR(商品名 MoCS)の紹介(図1)

当社グループでは、1979年以来AGVを世界各地で6,000台以上を製造販売してきた。又、創業1952年以来、様々な病院内搬送設備を独自技術で開発してきた経験を活かし、最新のAMR(以下MoCS)の実用化に成功した。最大の特徴は、誘導方式に最新のSLAM方式を使い、搬送駆動部に当たる“ムービングユニット”とモノを収納する“カートユニット”や人の手

の代わりになる“ハンドリングユニット”を分離することで様々な用途に対応できるようになった。これにより、現在使用されている手動カートにも対応できることで、様々な使い方が可能となった。又、中央監視システムでは、全てのロボットの作業状況が監視できるので安全性も高まった。

<参考運用事例>

① SPD業務の自動化(保管・ピッキング・搬送)(図2)

単にモノを搬送するだけでなく、治療に必要な薬や診療材料を保管している棚から在庫管理システムを通して、“必要なモノ”を“必要な数・量”を自動的に取出し、“必要場所”まで搬送することが可能となる。

② 他設備との接続(図3)

中央材料部での自動洗浄機や高圧蒸気滅菌機をMoCSと接続することで、使用済み器材が入れられた容器を自動で洗浄機や滅菌機に投入することができるため、効率化・省人化が図れる。

病棟・外来採血室等からの検体搬送では、MoCSを使うことで、自動的に検査部内の検査ラインに検体を投入することが可能となる。

③ 感染対策(図4)

入退室制限ゾーンへの自動搬送だけでなく、入退室制限ゾーン内での人との協働作業が可能となる。(患者さん見守り・巡回警備、消毒・殺菌、患者との対話等)

特に入退室制限から出ることなく働ける自律走行型AMRであるMoCSは、大きな効果が期待される。

4.おわりに

人に代わる搬送ロボットは、感染対策や労働力不足に有効な手段であると考えられる。然しながら投資に見合う導入効果を得るためには、システムが最大限効率的に稼働できることが重要である。特に院内全体を走行させる搬送ロボットは、その動線計画(人との動線・エレベータとの連動計画等)は非常に重要となる。建物や現在の作業のやり方にシステムを合わせるのではなく、院内全体を俯瞰し今の作業の見直しも含めた最適な運用計画を立てることが重要であると筆者は考える。

(図3) 洗浄機や高圧蒸気滅菌装置との自動接続



案内ロボット



巡回ロボット



(図1) 様々なカートに対応できる自律走行型MoCS



(図2) SPD業務の自動化

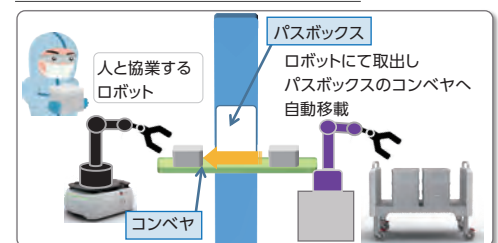
自動倉庫から必要なモノを自動的に取出し所定の場所へ搬送



(図4) 感染区域での作業ロボット



(図4) 立ち入り制限区域での作業ロボット



①AGVとはAutomatic Guided Vehicleの略称で、無人搬送車もしくは無人搬送ロボットのことを指す。
 ②SLAMとは、Simultaneous Localization and Mappingの略称で、“Simultaneous=同時に起こる”、“Localization=位置特定”、“and=と”、“Mapping=地図作成”となり、「位置特定と地図作成を同時に行う」という意味を指す。
 ③AMRとはAutonomous Mobile Robotの略称で、自律走行搬送ロボット・自律型共同ロボットを指す。

令和4年度賛助会活動報告

賛助金贈呈



令和4年度 賛助金贈呈式

開催日:令和5年3月9日(木)
場 所:都市センターホテル

賛助会から全国自治体病院協議会に対し賛助金の贈呈が行われました。

令和4年度 第2回研修会

開催日:令和5年3月9日(木) 場所:ホテルルポール麹町



公益社団法人 全国自治体病院協議会 薬剤部会 部会長室井 延之様(神戸市立医療センター中央市民病院 薬剤部長)より“地域と病院とをつなぐ薬物療法と薬剤師の役割～病院薬剤師の魅力とやりがい～”のテーマでご講演を頂きました。



第61回全国自治体病院学会 学会長 松岡伸一先生(苫小牧市立病院 院長)から来年度、北海道で開催予定の学会紹介が行われました。



当会会員企業から各社専門分野における「院内における働き方改革」をテーマに講演が行われました。

右からアイホン(株)、(株)タカゾノ、(株)リブドゥコーポレーション



現地参加及びweb参加による研修会が開催されました。多くの会員企業が現地参加し、会員同士の交流も活発に行われ有意義な研修会となりました。

令和5年度(第56期)定時総会

開催日時:令和5年4月13日(木) 16:00～17:00 開催場所:海運クラブ(東京都)

総会では、会員総数121社に対し委任状提出あわせ計85社の出席により、令和4年度事業報告・令和5年度賛助会事業計画および予算案について審議され、滞りなく承認されました。

本年度の活動方針としては、公益社団法人 全国自治体病院協議会並びに自治体病院の発展に寄与する活動として、例年どおりの協議会事業への協力(賛助金の贈呈、学会・ブロック会議への参加等)に加え、広報誌やホームページを通じた自治体病院の課題解決に向けた“お役立ち情報(賛助会員の持つノウハウ・商品・サービス・新技術等)の発信”が、今期事業計画の重点課題としてあげられました。

また、定時総会後には4年ぶりに懇親会も開催され、協議会および共済会からも多数ご臨席を賜りました。



協議会 小熊会長からの祝辞



定時総会の様子

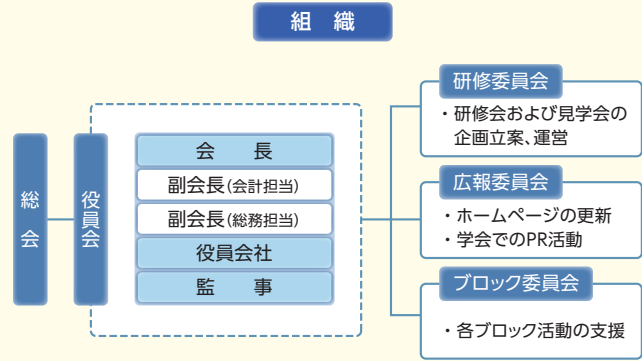


松岡学会長からの北海道学会PR

全国自治体病院協議会・賛助会について

全国自治体病院協議会・賛助会は全国自治体病院協議会が昭和37年(1962年)4月に設立されたのを受け、その後、協議会の趣旨を理解し自治体病院の発展に寄与することを目的とし、昭和43年(1968年)7月17日に病院関連の有志企業によって結成されました。全国自治体病院協議会・賛助会(以下、賛助会)は、全国自治体病院協議会の目的を理解し、自治体病院の発展のために寄与するとともに、賛助会員相互の向上を図ることを目的とする法人格を持たない任意の団体です。

賛助会の会員は、病院事業に関わる事業を営む者で賛助会の主旨に賛同した者で、現在121社が所属しています。



令和5年度 三役会社

会長会社	(株)エヌジェーシー
副会長会社(会計担当)	富士電機(株)
副会長会社(総務担当)	西松建設(株)

賛助会令和5年度事業計画

令和5年

4月	定時総会
4月～9月	協議会主催のブロック会議への参加
8月～9月	全国自治体病院学会 in 北海道 賛助金贈呈と賛助会ブースの出展
9月	第1回研修会
12月	忘年会

令和6年

1月	新春賀詞交歓会
2月	第2回研修会
3月	協議会への賛助金贈呈

ホームページで全国の自治体病院に対しお役立ち情報提供がスタート

当賛助会では、広報誌“かけはし”が年2回(春・秋)発行されますが、それ以外でも当会が運営するホームページを通して、多くのお役立ち情報をご覧いただけます。

情報は、適時更新し有益な最新事例などを発信していきますので是非ご活用下さい。

全国自治体病院協議会・賛助会
<http://www.jmha-p.net/>

QRコードで
確認できます



表紙写真の説明



蓬萊橋概要

静岡県島田市にある大井川にかかる蓬萊橋ほうらいばしは、昔ながらの風情にあふれる橋の様子から、時代劇をはじめテレビドラマやサスペンスの舞台に使われています。この橋は、国内でも数少ない賃取橋ちんとりばしですが、非常に縁起のいい橋としても知られています。その理由は、橋は木造作りで、全長が897.4メートル(通行幅2.4メートル)であることから、長い木=長生きの橋、全長897.4(やくなし=厄無し)の語呂合わせから縁起が良いとされています。又、「世界一の長さを誇る木造歩道橋」としてギネスにも認定されています。新型コロナウイルスの蔓延に加え世界で起きている地政学的リスクが世界中の国や人々に悪い影響を与えていますが、今年こそ平和で穏やかな日々が戻るようにと蓬萊橋に祈願しながらシャッターを切りました。

撮影者
賛助会 第2ブロック 平岡 秀一



《 当賛助会は、公益社団法人 全国自治体病院協議会への協力と自治体病院の発展に寄与することを目的としています 》

第1ブロック 医療機器部門(24社)

- 1 エア・ウォーター防災(株)
- 2 協和医科器械(株)
- 3 グリーンホスピタルサプライ(株)
- 4 コニカミノルタジャパン(株)
- 5 サカセ化学工業(株)
- 6 サクラ精機(株)
- 7 GEヘルスケア・ジャパン(株)
- 8 シーメンスヘルスケア(株)
- 9 (株)ジェイ・トラスト
- 10 シスメックス(株)
- 11 (株)島津製作所
- 12 (株)タカゾノ
- 13 (株)千代田テクノル
- 14 テルモ(株)
- 15 日機装(株)
- 16 ニプロ(株)
- 17 日本光電工業(株)
- 18 (株)フィリップス・ジャパン
- 19 フクダ電子(株)
- 20 富士電機(株)
- 21 富士フィルムメディカル(株)
- 22 (株)ホギメディカル
- 23 村中医療器(株)
- 24 (株)理舎

第2ブロック 設備部門(36社)

- 1 アーパス技研工業(株)
- 2 (株)アイホー
- 3 アイホン(株)
- 4 アズビル(株)
- 5 アルファグループ(株)
- 6 (株)アルメックス
- 7 (株)S&Sエンジニアリング
- 8 (株)荏原製作所
- 9 (株)オカムラ
- 10 北沢産業(株)
- 11 (株)ケアコム
- 12 コクヨ(株)
- 13 コマニー(株)
- 14 斎久工業(株)
- 15 三建設備工業(株)
- 16 (株)三晃空調
- 17 三和シャッター工業(株)
- 18 シーホネンス(株)
- 19 (株)スローライフジャパン
- 20 炭平コーポレーション(株)
- 21 (株)セントラルユニ
- 22 ダイダイン(株)
- 23 田島ルーフィング(株)
- 24 (株)中西製作所
- 25 日本空調システム(株)
- 26 (株)日本シューター
- 27 日本調理機(株)
- 28 能美防災(株)
- 29 (株)パートナ
- 30 パラマウントベッド(株)
- 31 不二サッシ(株)
- 32 (株)フジマック
- 33 文化シャッター(株)
- 34 ホシザキ販売(株)
- 35 ヤンマーエネルギーシステム(株)
- 36 菱機工業(株)

第3ブロック 設計建築部門(28社)

- 1 (株)梓設計
- 2 (株)石本建築事務所
- 3 (株)伊藤喜三郎建築研究所
- 4 (株)医療開発研究所
- 5 鹿島建設(株)
- 6 (株)教育施設研究所
- 7 (株)楠山設計
- 8 (株)久米設計
- 9 (株)佐藤総合計画
- 10 (株)システム環境研究所
- 11 (株)昭和設計
- 12 (株)大建設(株)
- 13 大成建設(株)
- 14 大和リース(株)
- 15 (株)竹中工務店
- 16 (株)丹青社
- 17 戸田建設(株)
- 18 (株)内藤建築事務所
- 19 (株)内藤ハウス
- 20 西松建設(株)
- 21 (株)藤木工務店
- 22 (株)フジタ
- 23 (株)プラスPM
- 24 (株)松田平田設計
- 25 (株)松村組
- 26 (株)村田相互設計
- 27 (株)山田総合設計
- 28 (株)横河建築設計事務所

第4ブロック 製薬部門(8社)

- 1 エーザイ(株)
- 2 共創未来ファーマ(株)
- 3 沢井製薬(株)
- 4 田辺三菱製薬(株)
- 5 東和薬品(株)
- 6 日本ケミファ(株)
- 7 Meiji Seika ファルマ(株)
- 8 持田製薬(株)

第5ブロック 資材サービス部門(25社)

- 1 (株)アートネイチャー
- 2 (株)アイシーエム
- 3 (株)アメニティ
- 4 (株)ヴァイタス
- 5 (株)エヌジェーシー
- 6 (株)エフエスユニマネジメント
- 7 (株)エムプラット
- 8 (株)エラン
- 9 (株)LSIメディエンス
- 10 (株)グローバルヘルスコンサルティング・ジャパン
- 11 (株)サンワ
- 12 (株)シード・プランニング
- 13 (株)ジェイワールドトラベル
- 14 (株)じほう
- 15 (株)ソラスト
- 16 (株)トーカイ
- 17 (株)ニチイ学館
- 18 (株)日本経営
- 19 (株)パースジャパン
- 20 富士産業(株)
- 21 ベストワールド(株)
- 22 (株)ホスピタルヘルスケア
- 23 (株)丸井工文社
- 24 八尾医療PFI(株)
- 25 (株)リブドゥコーポレーション

令和5年度新入会社

第5ブロック (株)パースジャパン

会員数 121社(2023年4月1日現在)

各会員企業へのご連絡は…
全国自治体病院協議会・賛助会
<http://www.jmha-p.net/>
QRコードで確認できます



令和5年度 三役会社

会長会社 (株)エヌジェーシー
副会長会社(会計) 富士電機(株)
副会長会社(総務) 西松建設(株)